




琉球大学学術リポジトリ

Evaluation of weakness of ciliary zonule in primary angle closure diseases using ultrasound biomicroscopy

メタデータ	言語: en 出版者: 琉球大学 公開日: 2022-06-10 キーワード (Ja): キーワード (En): zonular weakness, PACD, UBM, cataract surgery 作成者: 力石, 洋平 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002018033

(別紙様式第 7 号)

論文審査結果の要旨




報告番号	課程博 * 第 号 論文博	氏名	力石洋平
論文審査委員	審査日	令和 4 年 3 月 2 日	
	主査教授	石田 肇	
	副査教授	石内 勝吾	
	副査教授	清水 雄介	
(論文題目)			
Evaluation of weakness of ciliary zonule in primary angle closure diseases using ultrasound biomicroscopy (超音波生体顕微鏡を用いた原発閉塞隅角病の毛様小帯脆弱の評価)			
(論文審査結果の要旨)			
上記論文に関して、研究に至る背景と目的、研究内容および研究成果の意義と学術的水準について慎重に検討し、以下のような審査結果を得た。			
1. 研究の背景と目的			
現在、失明原因の上位を占める緑内障のうち、原発閉塞隅角緑内障 (primary angle closure glaucoma: PACG) の治療として、近年水晶体再建術の有効性が示され行われている。しかしながら PACG をはじめとする原発閉塞隅角病 (primary angle closure disease: PACD) の水晶体再建術は通常の水晶体再建術と比較して合併症が多い。特に毛様小帯脆弱があれば手術難易度は高く、高度な毛様体脆弱がある場合は眼内レンズの毛様溝縫着など追加手術が必要になることもある。この毛様小帯脆弱を術中に評価した報告はあるが、術前に評価した報告はない。本研究では PACD 眼の毛様小帯脆弱を術前評価として超音波生体顕微鏡 (ultrasound biomicroscopy: UBM) を用いて評価することを目的としている。			
2. 研究内容			
症例は 106 例 133 眼。133 眼のうち白内障中の所見として毛様小帯脆弱のあった 68 眼と毛様小帯脆弱のなかった 65 眼を比較検討した。評価するパラメータとして既存のパラメータである屈折、前房深度、眼軸、水晶体位置、相対的水晶体位置以外に UBM を用いた 3 つのパラメータを新たに用い評価した。毛様小帯脆弱群 68 眼のうち 8 眼は水晶体亜脱臼があり眼内レンズの毛様溝縫着が必要であった。UBM のパラメータでは毛様体突起から水晶体前面までの直線距離 (CP-LS) が毛様溝縫着を行った群で有意に長かった。それぞれのパラメータにおける ROC 曲線での Area under the curve (AUC) は毛様溝縫着の有無での検討では 0.71~0.84 であり、最も高かったのは CP-LS であった。Youden's index を用いた CP-LS のカットオフ値は 1.12mm であった (感度 0.88、特異度 0.81)。			
3. 意義と水準			
本研究では原発閉塞隅角病に対して術前に超音波生体顕微鏡を用いて毛様小帯脆弱を評価することが可能であり、毛様体突起から水晶体前面断端までの距離を計測することにより適切な術式を選択することができることを示しており学術的にもその意義は極めて高いと評価できる。			
以上の結果から、本論文は学位授与に十分値すると判断した。			

- 備考 1 用紙の規格は、A 4 とし縦にして左横書きとすること。
2 要旨は 800 字～1200 字以内にまとめること。
3 *印は記入しないこと。

令和 4 年 3 月 4 日

(別紙様式第 8 号)

最終試験結果の要旨

報告番号	*課程博第 号	氏名	力石洋平
論文審査委員	審査日	令和 4 年 3 月 2 日	
	主査教授	石田 肇	
	副査教授	石内 勝吾	
	副査教授	清水 雄介	
(最終試験結果の要旨)			
最終試験は口頭による公開討論によって行い、以下の件について確認した。			
<ol style="list-style-type: none">1. 提出論文の内容、意義について十分把握していること2. 研究の背景、目的と方法について熟知していること3. 研究の結果について正しく理解していること4. 関連する国内外の研究を良く把握していること5. 研究成果の展望について確かな見識を有していること			
審査の結果、これらに関連する質問に対して十分満足する回答が得られたため、本学大学院博士課程を修了するに値すると判断し、最終試験は合格とした。			

- 備考 1 用紙の規格は、A4とし縦にして左横書とすること。
2 *印は記入しないこと。